

## 教養試験問題

## — 注意事項 —

- 1 指示があるまで開かないでください。
- 2 解答には、必ずHBの鉛筆又はHBのシャープペンシルを使用してください。
- 3 各問題には、1から5までの選択肢がありますが、この中から正答を1つ選び、次の要領で記入してください。なお、2つ以上印をつけた解答は誤りとなります。

(例)

[No. 1] 日本の首都として、正しいのはどれか。

- 1 札幌
- 2 東京
- 3 大阪
- 4 京都
- 5 北九州

問 1      ① ● ③ ④ ⑤

答えは2の「東京」ですから、上のように記入してください。

- 4 解答マークの記入は、枠内に丁寧に記入してください。枠外にはみ出したり、著しく記入例と異なるものは採点できない場合があります。
- 5 記入を間違えたときは、消しゴムで丁寧に消し、消しゴムのかすを完全に払ってください。汚れが残っていると採点できない場合があります。
- 6 問題は45問で、解答時間は120分です。
- 7 この問題は持ち帰ることができます。

[No. 6] 次の会話文の  に当てはまる正しい英文として、最も妥当なのはどれか。

A : Are you free this Sunday?

B : Probably. Why?

A : I'm having a dance party.

B : Sure. What time will it start?

A : Around eight.

B : Great. See you there.

1. Would you like to come?
2. Way to go!
3. How have you been?
4. You said it!
5. I'd love to.

[No. 7] 次の英文の ( ) に当てはまる単語として、最も妥当なのはどれか。

( ) tired he is, he always smiles.

1. However
2. Whatever
3. Wherever
4. Whenever
5. Whoever

[No. 8] 次の英文の文法・語法として、最も妥当なのはどれか。

1. I can't say who lives in the house.
2. I don't know where was my father.
3. Do you know what is he doing now?
4. I wonder why did she go there.
5. Can you tell me how can I get to the station?

[No. 9] A～Dの4人はある高校の1組～4組のいずれか異なるクラスに在籍し、また、サッカー部、野球部、バレーボール部、陸上部のいずれか異なる部活動に所属している。この4人でマラソンをした結果について次のア～エのことがわかっているとき、確実にいえることとして、最も妥当なのはどれか。

- ア Aの次にサッカー部に所属する者がゴールし、その次に1組の生徒がゴールした。
- イ 4組の生徒の次に野球部に所属する者がゴールし、その次にCがゴールした。
- ウ 2組の生徒の次にバレーボール部に所属する者がゴールした。
- エ 同時にゴールした者はいなかった。

1. Bが1番目にゴールした。
2. Aが1番目にゴールした。
3. Dは4組である。
4. 1組の生徒はバレーボール部に所属している。
5. BはCより順位が低かった。

[No. 10] ある年の8月1日は木曜日であった。その前の年の12月31日の曜日として、最も妥当なのはどれか。ただし、ある年はうるう年ではない。

1. 月曜日
2. 火曜日
3. 水曜日
4. 木曜日
5. 金曜日

[No. 11] あるセミナーに 50 名が参加した。下の表は、セミナー参加者の保有する資格を調査した結果をまとめたものである。次のア～ウのことがわかっているとき、セミナーの参加者で下の表の資格を全く保有していない者（資格無保有者）と 1 つ保有している者の人数の組合せとして、最も妥当なのはどれか。

保有資格	宅地建物取引士	行政書士	社会保険労務士	中小企業診断士
人数	22 人	16 人	13 人	9 人

- ア 上記の資格を 2 つ保有している者……14 人
- イ 上記の資格を 3 つ保有している者……5 人
- ウ 上記の資格を 4 つ保有している者……2 人

1. 資格無保有者が 11 人で、資格を 1 つ保有している者が 18 人であった。
2. 資格無保有者が 14 人で、資格を 1 つ保有している者が 15 人であった。
3. 資格無保有者が 18 人で、資格を 1 つ保有している者が 11 人であった。
4. 資格無保有者が 20 人で、資格を 1 つ保有している者が 9 人であった。
5. 資格無保有者が 26 人で、資格を 1 つ保有している者が 3 人であった。

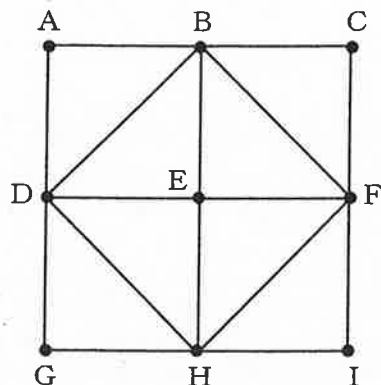
[No. 12] 朝食に関して調査をしたところ、次のア～オのことがわかった。このとき、確実にいえることとして、最も妥当なのはどれか。

- ア 納豆が好きな者は、海苔が好きである。
- イ 海苔か梅干が好きな者は、朝にパンを食べない。
- ウ 漬物を朝に食べない者は、朝にパンを食べる。
- エ 漬物を朝に食べる者は、朝に味噌汁も緑茶も飲む。
- オ 焼き魚が好きではない者は、朝に味噌汁を飲まない。

1. 朝に緑茶を飲む者は、納豆が好きである。
2. 焼き魚が好きではない者は、納豆も好きではない。
3. 朝に緑茶を飲まない者は、焼き魚が好きではない。
4. 梅干が好きでない者は、朝に味噌汁を飲まない。
5. 納豆が好きでない者は、朝にパンを食べる。



[No. 15] 下の図の点A～点Iに1～9のいずれか異なる数字を1つずつ当てはめ、6つの正方形の頂点の数の和がいずれも20になるようにする。点Aに3、点Hに2を当てはめるとき、6が当てはまる点として、最も妥当なのはどれか。



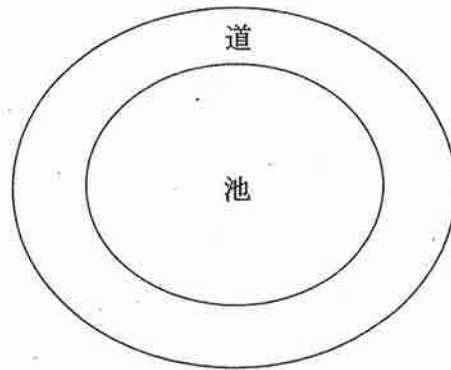
1. B
2. C
3. D
4. F
5. G

[No. 16] 82円、120円、205円の3種類の切手を、購入額の合計がちょうど2,000円になるように購入する。どの切手も必ず購入し、3種類の切手の合計枚数ができるだけ多くなるように購入するとき、120円切手の購入枚数として、最も妥当なのはどれか。

1. 1枚
2. 2枚
3. 3枚
4. 4枚
5. 5枚

[No. 17] 下の図のような池の周りの道をA、Bの2人が同じ地点から互いに反対向きに、同時にスタートした。途中、2人はすれ違ったが、Aは止まることなく歩き続け、BはAとすれ違った地点で9分間休憩をした後、再びAとは反対向きに歩き続けたところ、すれ違ってから25分後に再び出発地点ですれ違うことになった。このとき、Bが休憩せずに池の周りの道を1周するのにかかる時間として、最も妥当なのはどれか。ただし、2人の歩く速さはそれぞれ一定とする。

1. 32分
2. 34分
3. 36分
4. 38分
5. 40分

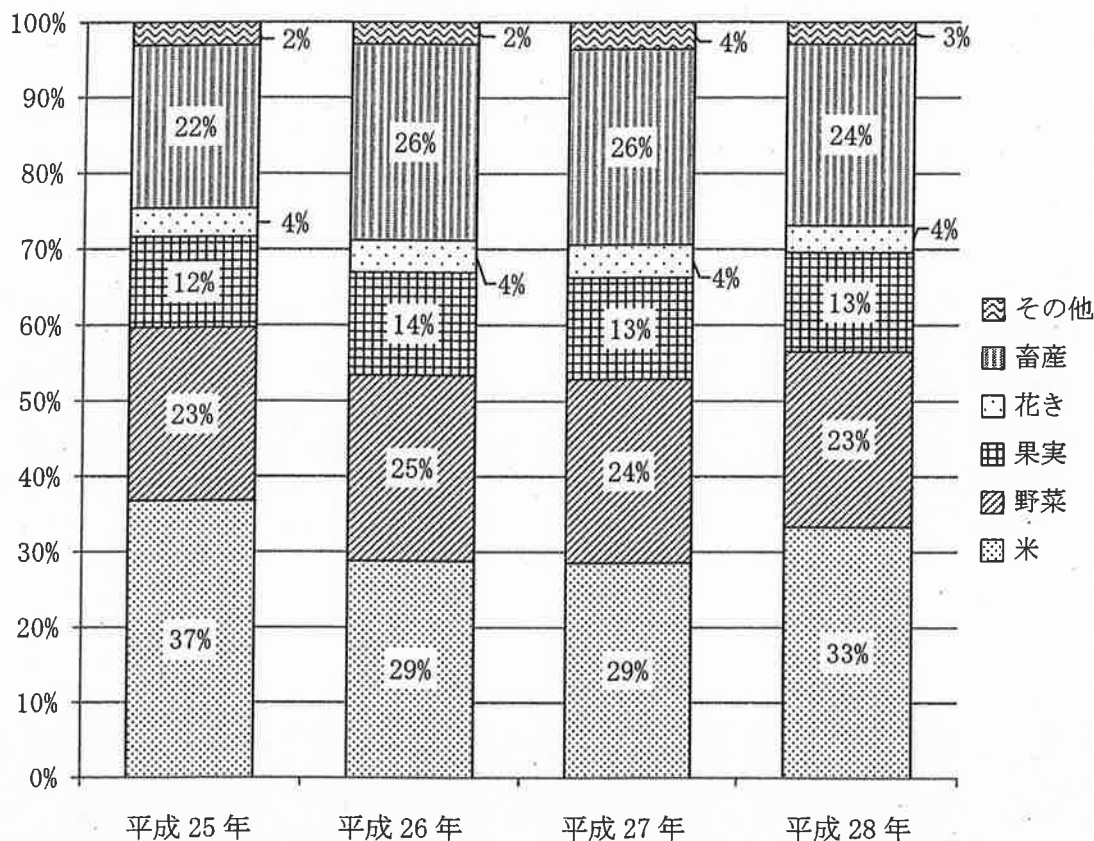


[No. 18] 0、3、6、7の4つの数字を使って、1桁から4桁の整数を作り小さい順に並べる。このとき、小さいほうから数えて127番目の整数として、最も妥当なのはどれか。ただし、同じ数字を何回使ってもよいものとする。

1. 3767
2. 3776
3. 3777
4. 6000
5. 6003



[No. 19] 下の資料は、農業産出額の内訳と合計の推移をまとめたものである。この資料から判断できることとして、最も妥当なのはどれか。



	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年
産出額合計	2,049 億円	1,837 億円	1,973 億円	2,077 億円

1. 表中の期間において、「米」の産出額は平成 28 年が最も多い。
2. 表中の期間において、「野菜」の産出額の平均は 500 億円を下回る。
3. 平成 28 年の「果実」の産出額は、250 億円を下回っている。
4. 平成 25 年の「畜産」の産出額を 100 とすると、平成 27 年の「畜産」の産出額は 120 を超える。
5. 平成 25 年から 28 年までの「花き」の産出額の合計は 300 億円を下回る。

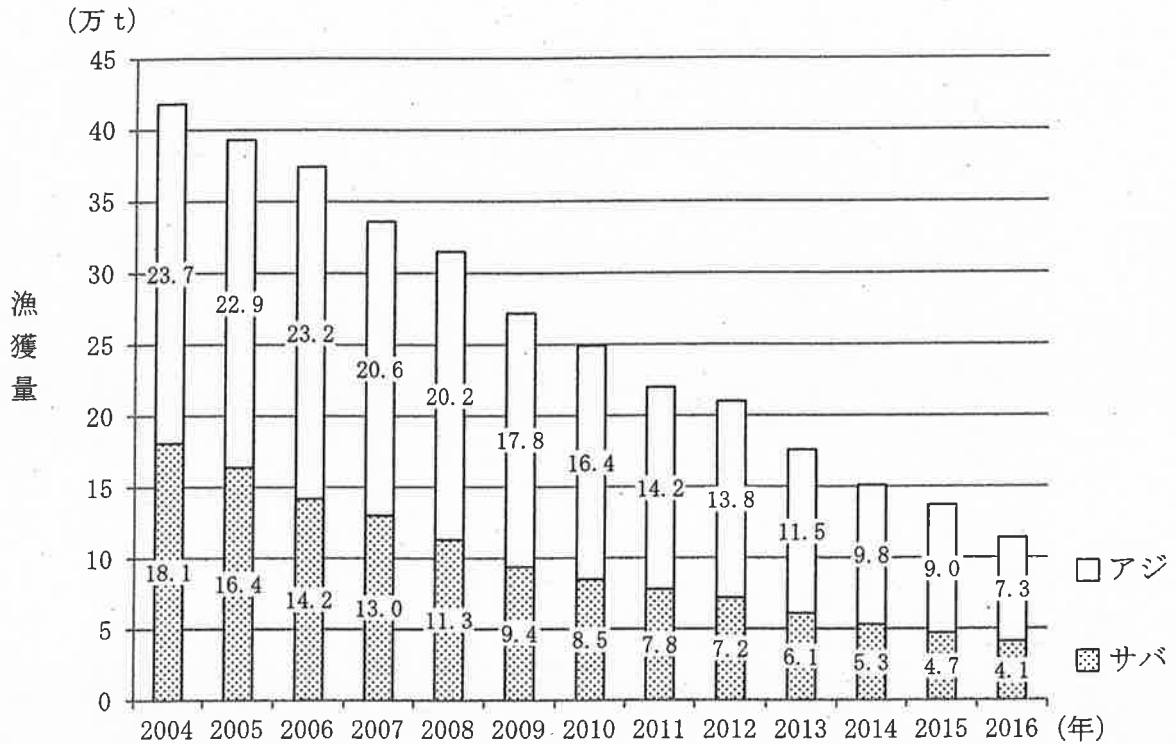
[No. 20] 下の表は、全世界とA国～E国のGDPの対前年成長率をまとめたものである。この表から判断できることとして、最も妥当なのはどれか。

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
A国	1.7	2.6	2.9	1.5	2.2
B国	0.6	1.9	1.5	1.9	2.1
C国	3.0	0.5	-3.8	-3.6	0.7
D国	1.3	0.7	-2.8	-0.2	1.8
E国	7.8	7.3	6.9	6.7	6.8
全世界	3.4	3.6	3.4	3.2	3.6

(単位:%)

1. A国の2013年のGDPを100とすると、A国の2017年のGDPは110を上回る。
2. A国に対するB国のGDPの割合は、2013年以降低下し続けている。
3. 年ごとにB国とC国のGDPの合計を比較すると、2015年と2016年は前年を下回っている。
4. 2013年以降、D国とE国のGDPの差は拡大し続けている。
5. 2013年以降、全世界に占めるE国のGDPの割合は上昇している。

[No. 21] 下の資料は、ある国のサバとアジの漁獲量と、サバとアジの漁獲量合計の輸出割合をまとめたものである。これらの資料から判断できることとして、次のア～ウの正誤の組合せのうち、最も妥当なのはどれか。



サバとアジの漁獲量合計の輸出割合 (%)

年	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
輸出割合	94.4	93.1	91.2	89.0	87.7	84.6	82.0	79.1	77.3	72.8	67.1	60.6	49.2

ア 表中の全期間を通じて、アジの輸出量はサバの輸出量を上回り続けている。

イ 2004年から2016年の期間で、サバとアジの漁獲量合計の対前年減少率が最も大きいのは2007年である。

ウ 2004年のサバとアジの輸出量合計は35万tを超えている。

- ア イ ウ
1. 正 誤 正
  2. 正 誤 誤
  3. 誤 正 誤
  4. 誤 誤 正
  5. 正 正 正

[No. 22] 下の表は、日本全国と一部の都県の人口の推移を調査年ごとにまとめたものである。この表から判断できることとして、最も妥当なのはどれか。

	1920年	1945年	1970年	2015年
東京都	370	349	1,141	1,352
千葉県	134	197	337	622
岡山県	122	157	171	192
鳥取県	45	56	57	57
長崎県	114	132	-157	138
日本全国	5,596	7,200	10,467	12,709

(単位：万人)

1. 日本全国の人口に占める東京都の人口の割合は、調査年のたびに上昇している。
2. 1920年と比較すると、2015年の人口の増加率が最も大きかったのは東京都である。
3. 2015年の、日本全国の人口に占める長崎県の人口の割合は、1945年に比べて増加している。
4. 対前回調査年比の人口増加率に関して、1945年から2015年までのすべての調査年で岡山県は日本全国を上回っている。
5. 日本全国の人口に占める鳥取県の人口の割合は、調査年のたびに低下している。

[No. 23] 下の表は、平成 25 年から平成 29 年の土地に関する登記の件数と個数をまとめたものである。この表から判断できることとして、最も妥当なのはどれか。ただし、この表には記載されていない登記の種類もあるため、それぞれの登記の件数または個数を足したものが総数と合わない場合がある。

種 類		平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年
		土地の表示に関する登記	件数	2,379,962	2,486,598	2,110,602
	個数	4,808,329	4,821,099	4,505,138	4,190,939	3,948,440
相続その他一般承継による所有権の移転	件数	858,740	896,621	861,360	866,122	908,713
	個数	3,716,306	3,886,840	3,709,120	3,691,963	3,805,660
売買による所有権の移転	件数	1,281,328	1,256,749	1,286,733	1,290,570	1,317,098
	個数	2,487,479	2,456,925	2,541,935	2,516,536	2,608,941
抵当権の設定	件数	806,687	750,631	766,459	871,765	793,587
	個数	1,776,042	1,631,610	1,642,222	1,821,160	1,707,901
根抵当権の設定	件数	161,762	161,703	164,746	168,661	164,031
	個数	468,324	474,261	465,341	489,753	465,222
総 数	件数	9,148,462	8,870,563	8,287,977	8,200,517	8,068,662
	個数	21,889,256	21,369,422	20,652,845	20,193,986	19,655,911

- 平成 29 年の「土地の表示に関する登記」個数の「総数」個数に占める割合は、平成 29 年の「売買による所有権の移転」件数の「総数」件数に占める割合のおよそ 3 倍である。
- 「土地の表示に関する登記」件数の「総数」件数に占める割合は、いずれの年も 20% を超えている。
- 「相続その他一般承継による所有権の移転」件数と「売買による所有権の移転」件数は、平成 25 年以降どちらも毎年増加している。
- 平成 27 年の「根抵当権の設定」件数の個数に占める割合は、前年より減っている。
- 「抵当権の設定」件数の「総数」件数に占める割合が 10% を超えている年はない。

[No. 24] 我が国の人権に関する記述として、最も妥当なのはどれか。

1. 自由権は「国家による自由」とも呼ばれるのに対し、社会権は「国家からの自由」とも呼ばれる。
2. 結社については、犯罪を行う組織等が結成されるおそれがあることから、日本国憲法では結社の自由は保障されていない。
3. 「知る権利」に関連して情報公開法が制定されたが、この法律には政府の説明責任については規定されているが、国民の知る権利については言及されていない。
4. 日本国憲法には被疑者・被告人の権利を細かく規定しているが、弁護人依頼権や黙秘権に関しては刑事訴訟法にゆだねているため、日本国憲法には明文の規定はない。
5. 通信の秘密は日本国憲法に明文の規定はないが、マス・メディアやインターネットの発達に伴い、新しい人権のひとつとして認められるようになった。

[No. 25] 我が国の行政権に関する次の記述で、～に当てはまる語句の組合せとして、最も妥当なのはどれか。

日本国憲法第 65 条は「行政権は、内閣に属する」と規定し、内閣に行政を行う権限を与えている。

内閣は、内閣総理大臣とその他の国務大臣から成るが、内閣総理大臣については、大日本帝国憲法（明治憲法）時代においてはという扱いであったが、現行憲法のもとではその地位がとされている。

内閣の権能としては、一般行政事務のほか、法律の誠実な執行と国務の総理、など、多岐にわたる。

なお、行政分野によっては、内閣から独立して職権を行使するが設けられている。

	A	B	C	D
1.	首長	同輩中の首席	予算の作成	特別委員会
2.	首長	同輩中の首席	国政調査権	行政委員会
3.	同輩中の首席	首長	裁判官の懲戒	常任委員会
4.	同輩中の首席	首長	予算の作成	行政委員会
5.	同輩中の首席	首長	国政調査権	特別委員会

[No. 26] 環境問題に関する記述として、最も妥当なのはどれか。

1. 1960年代の高度経済成長期に大規模な公害が発生したため環境基本法が制定され、1990年代に入り公害問題の深刻化を受けて、同法律は公害対策基本法に改められた。
2. 1970年代に環境保全を推進するため環境省が設置されたが、国民の環境に対する関心が高まり、一定水準の環境保全が行われているとして、2000年代に同省は環境庁に改編された。
3. 無過失責任の原則とは、公害を発生させた企業に故意や過失がなければ被害者への賠償責任を免れるとする原則のことであるが、被害者救済の見地から見直しが検討されている。
4. 環境影響評価(環境アセスメント)とは、事業者に対して地域開発が環境に与える影響を事前に調査させるもので、地方公共団体では条例化されているが同様の法律は制定されていない。
5. 経済協力開発機構(OECD)が勧告した、公害防止費用や企業が社会に与えた損害は、企業が負担しなければならないという原則のことを、汚染者負担の原則(PPP)という。

[No. 27] 市場機構に関する記述として、最も妥当なのはどれか。

1. 完全競争市場において、ある財の需要量が供給量を上回っている場合、価格は需要量と供給量が一致するまで下落する。
2. 少数の企業が支配する寡占市場では、技術開発や合理化で生産費用が減少するため、価格が低い水準から上昇しなくなる価格の下方硬直性が見られる。
3. 市場機構が働かない市場の失敗の例として、公害や環境破壊のように、市場を通さずに他の経済主体に不利益をもたらす外部経済がある。
4. 我が国では、1997年の独占禁止法の改正により、第二次世界大戦後から禁じられてきた持株会社の設立が認められるようになった。
5. 我が国では、独占禁止法でカルテルを禁じてきたが、1999年の同法の改正から、合理化カルテルや不況カルテルが適用除外として認められるようになった。

[No. 28] 石油輸出国機構(OPEC)から2019年1月に脱退することを表明した国として、最も妥当なのはどれか。

1. イギリス
2. 南アフリカ共和国
3. インド
4. カタール
5. アラブ首長国連邦

[No. 29] 近年の国際的な枠組みに関する次の記述で、～に当てはまる語句の組合せとして、最も妥当なのはどれか。

2018年11月、パプアニューギニアで開かれていたアジア太平洋経済協力会議「」の首脳会議が閉幕した。アメリカと中国が通商政策を巡って対立し、第1回首脳会議以来となる首脳宣言の不採択に終わった。

2018年12月、を除く11カ国による環太平洋パートナーシップ「」協定が発効した。これにより、総人口約5億人、国内総生産（GDP）約10兆ドルの巨大な経済圏が誕生することとなった。

	A	B	C	D
1.	APEC	初めて	アメリカ	NAFTA
2.	APEC	二度目	日本	TPP
3.	ASEAN	初めて	日本	NAFTA
4.	APEC	初めて	アメリカ	TPP
5.	ASEAN	二度目	アメリカ	TPP

[No. 30] 中国の清朝に関する記述として、最も妥当なのはどれか。

1. 朱元璋は明の弱体化に乗じて支配下の諸民族を従え、皇帝と称し、国号を清と改めた。
2. 三藩の乱で北京を占領されたことで明は滅び、清は中国全土に支配を広げた。
3. 乾隆帝は反清活動を行う鄭成功を降伏させて、その拠点であった台湾を領土にした。
4. 清は満州人による支配を徹底し、文字の獄という反清思想の弾圧を行った。
5. アヘンが社会問題となったため、雍正帝はロシア商人にアヘン貿易の禁止を迫った。

[No. 31] 江戸時代における天保の改革に関する記述として、最も妥当なのはどれか。

1. 徳川家治のもとで、老中水野忠邦が政府の権力の強化をめざした。
2. 享保・寛政の改革を模範とした倭約令は、庶民だけでなく将軍の生活にも及んだ。
3. 幕府財政の再建のために、株仲間を積極的に公認して、増収をめざした。
4. 徳川家斉の補佐として白河藩主松平定信が老中になり、幕政改革を行った。
5. 財政安定と対外防備を目的とした上知令による替地の命令は、全国大名に歓迎された。



[No. 32] 次の記述は、アフリカのある国についての記述であるが、「この国」を指すものとして、最も妥当なのはどれか。

ギニア湾岸に位置する「この国」は、かつて、植民地支配を受けていたが、「アフリカの年」とも呼ばれる 1960 年にイギリスからの独立を果たした。2016 年時点での人口は、約 1 億 9,000 万人であり、アフリカ最大の人口を有する。また、石油輸出国機構（OPEC）加盟国で、2017 年時点でアフリカ最大の原油産出国である「この国」は、ビアフラが油田地域である。多くの民族が存在する「この国」では、ビアフラの石油資源をめぐり、ビアフラ紛争が発生した。

1. エジプト
2. エチオピア
3. ケニア
4. コートジボワール
5. ナイジェリア

[No. 33] 熟語と読み仮名の組合せとして、最も妥当なのはどれか。

	読み仮名	意味
1. 委嘱	— いたく	仕事を他人に任せる
2. 言質	— げんしつ	証拠となる言葉
3. 漸次	— ざんじ	次第に、だんだん
4. 知己	— ちき	知り合い、知人
5. 吹聴	— ふうちょう	あちこち言いふらす

[No. 34] 三字熟語の漢字・読み仮名・意味がすべて正しいものの組合せとして、最も妥当なのはどれか。

	読み仮名	意味
1. 一家言	— いかごん	その道の権威の意見や主張
2. 間一発	— かんいっぱつ	事態が非常に切迫すること
3. 好事家	— こうじか	うまくいった喜びで夢中になっていること
4. 破天荒	— はてんこう	乱暴なこと
5. 未曾有	— みぞう	歴史上、今まで一度も起こったことがないこと

[No. 35] 下線部の漢字の使い方が正しい文として、最も妥当なのはどれか。

1. 一諸に遊ぶ。
2. 野鳥の勸察をする。
3. 俳句を世界に招介する。
4. 思想が浸透する。
5. 資本を蓄責する。

[No. 36]  $x^2 - 2y^2 + xy + 3x + 3y + 2$  を因数分解したものとして、最も妥当なのはどれか。

1.  $(x - y - 2)(x + 2y + 1)$
2.  $(x - y + 2)(x + 2y + 1)$
3.  $(x + y - 2)(x - 2y - 1)$
4.  $(x + y - 2)(x - 2y + 1)$
5.  $(x + y + 1)(x - 2y - 2)$

[No. 37] 2点  $(1, 2)$ 、 $(-1, -6)$  を通り、軸が直線  $x = 2$  となる 2 次関数として、最も妥当なのはどれか。

1.  $y = x^2 - 4x + 7$
2.  $y = -x^2 - 4x + 7$
3.  $y = -x^2 + 4x - 1$
4.  $y = x^2 + 4x + 2$
5.  $y = x^2 - 4x + 1$

[No. 38] A～Fの6人に3ヶ月間に読んだ本の冊数について調査をしたところ、Aは6冊、Bは9冊、Cは2冊、Dは11冊、Eは9冊、Fは5冊読んだことがわかった。この調査結果の標準偏差として、最も妥当なのはどれか。

1. 3
2. 4
3. 7
4.  $\sqrt{58}$
5. 9

[No. 39] 外から中が見えない袋の中に、赤球5個と白球6個の合計11個の球が入っている。この袋の中から、4個の球を同時に取り出し、少なくとも2個は赤球が取り出される確率として、最も妥当なのはどれか。ただし、全ての球に色以外の違いはないものとする。

1.  $\frac{10}{33}$
2.  $\frac{5}{11}$
3.  $\frac{2}{5}$
4.  $\frac{23}{33}$
5.  $\frac{43}{66}$

[No. 40] 次のA、Bの法則名の組合せとして、最も妥当なのはどれか。

A：与えられた熱のすべてを仕事に変換する熱機関は存在しない。

B：物体に力がはたらかないか、または物体にはたらく力が釣り合っているとき、物体の速度は変化しない。

- |    | A       | B       |
|----|---------|---------|
| 1. | 熱力学第1法則 | 運動の第1法則 |
| 2. | 熱力学第1法則 | 運動の第2法則 |
| 3. | 熱力学第1法則 | 運動の第3法則 |
| 4. | 熱力学第2法則 | 運動の第1法則 |
| 5. | 熱力学第2法則 | 運動の第2法則 |

[No. 41] 電波に関する次の記述で、～に当てはまる語句の組合せとして、最も妥当なのはどれか。

現代社会において、私たちは色々な場面で電波を利用しながら生活している。1864年、は、電磁気の法則から電気と磁気の振動が空間を波として伝わることを予言した。これを電磁波といい、電波はこの一種である。さらに、電磁波が伝わる速さを計算したところ、真空中の光の速さであると一致した。電磁波にのせて運ぶことができる情報量は、周波数がなるほど多くなることが知られている。

- |    | A      | B                             | C   |
|----|--------|-------------------------------|-----|
| 1. | マクスウェル | $3.0 \times 10^8 \text{ m/s}$ | 大きく |
| 2. | マクスウェル | $3.0 \times 10^4 \text{ m/s}$ | 小さく |
| 3. | オーム    | $3.0 \times 10^8 \text{ m/s}$ | 小さく |
| 4. | オーム    | $3.0 \times 10^4 \text{ m/s}$ | 小さく |
| 5. | オーム    | $3.0 \times 10^8 \text{ m/s}$ | 大きく |

[No. 42] 物質に関する記述として、最も妥当なのはどれか。

1. ナトリウムはアルカリ金属元素の一種で、酸素と激しく反応するため、冷水中に保存する。
2. マグネシウムはアルカリ土類金属元素の一種で、常温の水と激しく反応し、水素を発生する。
3. カリウムは赤紫色、カルシウムは橙赤色の炎色反応を示すが、ベリリウムは炎色反応を示さない。
4. 塩素はハロゲン元素の一種で、その単体は無色の気体で毒性がなく、酸化力が強い。
5. ヘリウムは希ガス元素の一種で、その単体は二原子分子で、融点、沸点が非常に低い。

[No. 43] イオンの大きさに関する次の記述で、 ~  に当てはまる語句の組合せとして、最も妥当なのはどれか。

$O^{2-}$ 、、 $Na^+$ 、、 $Al^{3+}$ は、原子と同じ電子配置をもつイオンである。イオン半径はが最も大きく、原子番号の順に小さくなっていく。これは、原子番号の増加に伴い原子核のの電荷が大きくなり、電子をより強くひきつけるためである。

- |    | A      | B         | C  | D         | E |
|----|--------|-----------|----|-----------|---|
| 1. | $F^-$  | $Mg^{2+}$ | Ne | $O^{2-}$  | 正 |
| 2. | $Cl^-$ | $Mg^{2+}$ | Ar | $O^{2-}$  | 負 |
| 3. | $F^-$  | $Mg^{2+}$ | Ne | $Al^{3+}$ | 正 |
| 4. | $Cl^-$ | $Ca^{2+}$ | Ar | $Al^{3+}$ | 負 |
| 5. | $F^-$  | $Ca^{2+}$ | Ar | $Al^{3+}$ | 正 |

[No. 44] RNAに関する次の記述で、**A**～**D**に当てはまる語句の組合せとして、最も妥当なのはどれか。ただし、同一の記号には同一の語句が入るものとする。

RNAのヌクレオチドの糖は**A**である。塩基についてはDNAと共通するアデニン、グアニン、シトシンのほかに、**B**をもつ。

タンパク質の合成では、DNAの一方の鎖の塩基配列を写しとったRNAが合成される。この過程を**C**といい、**C**によってできたRNAを**D**という。

	A	B	C	D
1.	デオキシリボース	ウラシル	翻訳	mRNA(伝令RNA)
2.	デオキシリボース	チミン	転写	tRNA(転移RNA)
3.	リボース	ウラシル	転写	mRNA(伝令RNA)
4.	リボース	チミン	転写	mRNA(伝令RNA)
5.	リボース	ウラシル	翻訳	tRNA(転移RNA)

[No. 45] ヒトの体温を低下させるために起こる体温調節の仕組みとして、最も妥当なのはどれか。

1. 筋肉が収縮する。
2. 肝臓・脂肪組織における化学反応が促進される。
3. 心臓の拍動数が増加する。
4. 皮膚の血管が拡張する。
5. 立毛筋が収縮する。

2019年度東京消防庁消防官（Ⅱ類）教養試験問題正答発表

令和元年8月25日（日）実施

問題番号	正答
1	5
2	1
3	4
4	4
5	3
6	1
7	1
8	1
9	4
10	1
11	4
12	2
13	3
14	4
15	4
16	3
17	3
18	2
19	2
20	5
21	4
22	5
23	2
24	3
25	4

問題番号	正答
26	5
27	4
28	4
29	4
30	4
31	2
32	5
33	4
34	5
35	4
36	2
37	3
38	1
39	5
40	4
41	1
42	3
43	1
44	3
45	4

※ 内容に関するお問合せには応じられません。ご了承ください。



2019年度消防官（Ⅱ類）  
採用試験論題

注意事項

- 1 指示があるまで開かないでください。
- 2 試験時間は90分です。
- 3 字数は800字以上1,200字程度です。
- 4 この論題用紙は持ち帰ることができます。

## 論題

職場におけるチームワークの重要性とチームワークの醸成に対する取り組み方について、あなたの考えを具体的に述べなさい。